

立教大学学術推進特別重点資金(立教SFR)
共同プロジェクト研究
2021年度研究【経過・成果】報告書

研究代表者	所属部局・職名		氏名					
	異文化コミュニケーション学部・教授		イ・ヒャンジン					
研究課題	グローバル・スタディーズとしてのコリアン・スタディーズ—文化交流と人の移動を軸に							
研究組織 (研究代表者・研究分担者) 2022年3月現在	所属研究機関・部局・職名		氏名					
	研究代表者 立教大学・異文化コミュニケーション学部・教授		イ・ヒャンジン					
研究分担者		黄 盛彬						
立教大学・社会学部・教授		韓 志昊						
立教大学・観光学部・教授		浜崎桂子						
立教大学・異文化コミュニケーション学部・教授		武田珂代子						
立教大学・異文化コミュニケーション学部・教授		河合優子						
立教大学・異文化コミュニケーション学部・教授		金智英						
立教大学・文学部・兼任講師								
研究期間	2021年度～2023年度							
研究経費※ (上段:支出金額)	2021年度		2022年度		2023年度		総計	
	2,600,000	円	0,000,000	円	0,000,000	円	2,600,000	円
(下段:採択金額)	2,600,000		1,700,000		1,700,000		6,000,000	

※1円単位で記入

研究の概要 (200～300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

本プロジェクトの目的は、欧米、アジアなど世界の多様な地域における関連研究、そして日本研究及びアジア研究との連携を図りつつ、日本におけるコリアン・スタディーズの拠点を確立すると同時に、グローバルな連携を強化することである。この研究では、トランスナショナルな視点から韓国の多種多様な動向への関心に答えつつ、グローバルな連携を強化した日本における新たな韓国・朝鮮に関連する研究(以下、コリアン・スタディーズとする)の展開を目指す。さらに、共同研究の成果を教育プログラムの開発に応用できるようにし、現代性、学際性、グローバルな通用性をもつ新たなコリアン・スタディーズの教育プログラムの開発を推進する。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

〔コリアン・スタディーズ〕〔文化交流〕〔学際性〕

研究【経過】成果】の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

本共同研究が目指す「現代韓国の社会・文化・メディアに焦点化した研究拠点」を構築するための第一ステップは「テーマ研究の推進」である。本プロジェクトには、社会学、異文化コミュニケーション学、メディア研究、カルチュラルスタディーズ、翻訳通訳研究、比較文学などといった多様な学問分野からの研究者が参加している。共同研究者(研究協力者を含む)はそれぞれ多様な国際的ネットワークを築きながら研究に取り組んできており、「日韓」という二国間関係を越えて、より多様なグローバルなネットワークに属しながら、さまざまな形で韓国の研究者と交流を行ってきた。本プロジェクト研究申請時の研究計画では、共同研究者が、それぞれ有する国内外のネットワークを活用して、これまでには必ずしも「韓国・朝鮮研究」に関わっていないが、テーマとして、また比較対象としての「コリア」と向き合ってきた研究者との連携も図っていく予定だった。そこで、今年は、各分野の韓国関連テーマ研究者を迎えて研究会を実施した。新型コロナウイルス蔓延状況をうけて、研究会はすべて ZOOM を利用した。

【研究会】

第一回：2021年7月23日(金)

報告者(研究協力者)：金智英氏(立教大学文学部兼任講師)(11月から分担者として合流)

タイトル：日本における韓国文学

発表内容：【韓国研究の大きな流れ、韓国・韓国文学研究、日本文学のなかの韓国、翻訳出版状況】

日本の朝鮮半島研究は歴史研究から始まった。その後、研究者たちは方向を一変し、それまでの朝鮮研究を自己批判しながら新しい立場から朝鮮半島を研究し始めた。しかし、「内在的発展論」を基盤に行われていた朝鮮半島研究は、80年代に入ると衰退し始める。研究者たちは以前の研究のイデオロギー性から逃れることを目標とし、厳密な資料分析による実証主義を求めた。90年代以降朝鮮半島に対する日本の実証研究は、周辺的な位置へと追いやられていった。韓国における実証研究の水準が向上されていったからである。実証研究が力を失うと、再び理論的な議論を重視する研究が始まり、現在に至る。日本人が主体となって韓国文学を研究し始めたのは70年代からである。現在日本にいる韓国文学研究者は、韓国で学んだ日本人と日本で学んだ韓国人の混成であるが、決して多くはない。だが、最近では韓国の研究者たちとの連携が強まり、日韓の研究者交流がさらに深まっている。

第二回：2021年9月11日(土)

報告者(研究協力者)：李美淑氏(立教大学グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター助教)

タイトル：熊本市民から問う日本の近代史とアジア「明成皇后を考える会」(以下考える会)と父の「従軍日誌」

発表内容：【2021年7月28日～30日熊本出張報告会】

28日：「明成皇后を考える会」(代表の甲斐利雄氏のご自宅(阿蘇)訪問)

「考える会」の発足背景(甲斐氏(93歳)の個人史的な背景、韓国のマスコミでの活動紹介とKBSドキュメンタリー制作者との出会いから)、「考える会」の結成、メンバー構成、活動、熊本の人びととの交流などについての報告。

29日：(田中信幸氏、熊本民団の会議室)

「父の日誌」にたどり着くまでの経緯、田中さんと父との葛藤と対話、父の日誌のなかの「慰安婦」などについての報告。

・現在の問題意識：2015年の「慰安婦合意」⇒現在の韓国は「国際条約をやぶった国」で、日本が「被害国」と主張。正面切って、この一連の問題の核心につくメディアはない。展望としての将来は、明るくない。

第三回：2021年10月16日(土)

報告者(研究協力者)：Yeo Yezi氏(立教大学異文化コミュニケーション学部助教)

タイトル：韓国芸能人の兵役のメディア・スペクタクル

発表内容：【研究の背景・概念、研究方法、事例紹介・メディアの反応、Q/A】

韓国社会における男性有名人の徴兵と軍事体制の役割と意義は、様々な研究者たちによって歴史的、社会政治的、ジェンダー・ポスト植民地研究の観点から探求されてきた。だが、強制的な兵役徴収に対して問題を提議する男性有名人の行為やその詳細な状況を究明する研究はかなり不足している。1948年に大韓民国が設立されて以来、軍は戦後の政治、経済、社会発展において強い勢力となった。その後、1950年の朝鮮戦争の勃発に伴い、国家安全保障はもつとも重要な政策とされ、韓国社会で兵役は「神聖な義務」となった。そこで、1950年代以降の男性有名人の兵役に関する問題をそれぞれの兵役に関する有名人の具体的なケースと、メディア・スペクタクルに焦点を当てて究明しようとする。今回の報告会では兵役問題でマスコミに大きく取り上げられた、政治家の子息、スポーツ選手、俳優、歌手などの詳細を紹介した。

研究【経過・成果】の概要 (つづき)**【分担者・RA 報告】2021 年 9 月 11 日 (土)****報告者：武田珂代子 (立教大学異文化コミュニケーション学部教授)**

タイトル：済々黷・熊本とコリアン・スタディーズ

発表内容：【問題意識、コリアと熊本、明治期の済々黷、日本の朝鮮・大陸進出と済々黷、現地調査】なぜ済々黷で日本初の中等教育での朝鮮語教育が始まったのか、「日清戦争通訳官」「日露戦争通訳官」にはなぜ熊本県人が多かったのか、言語を学ぶ・学ばせる動機とは何だったのかといった問題意識から出発。それを探るため、明治期の済々黷の動向と、中心人物であった佐々友房の略歴や朝鮮・中国観、近代日本初のアジア主義組織であった興亜会(1880 年(M13)東京で設立)の影響や時代的背景などを紹介。また、「日鮮の関係は益々密となるより、朝鮮国において事業をなさんとすれば、鮮語に通じるものを養成すべき」とし、熊本県から派遣した朝鮮語留學生の詳細や、済々黷出身者熊本県人、済々黷・日露戦争兵士からの手紙(「ドイツ語ができて通用語は英語。戦争で勝っても、語学の点では大負けした」)などを紹介した。

報告者：RA 朴健植 (立教大学大学院社会学研究科博士後期課程)

タイトル：韓国社会が描く乙未事変という歴史的事件

研究内容：【乙未事変の意義、乙未事変を描いた作品、先行研究の整理(歴史学)、先行研究の方向性を再検討】「乙未事変」とは 1895 年(乙未)10 月 8 日未明、駐韓公使三浦梧楼指揮の下に日本官憲と大陸浪人らがソウルの景福宮に乱入し、高宗の妃閔 妃を殺害した事件のこと。乙未事変を描いた代表的な作品としては、①ドラマ：明成皇后(2001) ②映画：The Sword With No Name(2009、韓国名：불꽃처럼 나비처럼) ③ミュージカル：明成皇后(1995) ④小説：明成皇后(2001、2002、2006、2013 等、約 20 冊)等が挙げられる。先行研究としては、①乙未事変の記録(原因・展開、日本政府の対応等) SungDaegyeong(2002)、KimYoungsoo(2010) ②乙未事変の責任論(主に日本政府に向けて) KimYoungsoo(2009;2010) ③国際情勢分析(日露・日韓関係等) ChoiMoonhyung(2000)、申国柱(2011) ④組織(大陸浪人)、JungAeyeong(2015)がある。今回の発表では各先行研究の詳細と方向性を紹介した。

報告者：RA 高橋伸夫 (立教大学異文化コミュニケーション研究科博士後期課程)

タイトル：尹東柱関連資料についての調査報告

発表内容：【先行研究、出版の動向、映像資料、尹東柱に関する研究の課題】尹東柱に関する英語での研究：Ko&Kim(2020)「詩のロシア語翻訳の問題」、Cook(1977)「尹東柱の生涯について」など(総数 5)。日本語での研究・出版：(総数 85: 本 8、編著の一部 10、論文 13、雑誌記事 39、その他(詩集、小説、ブックレット、会報など)15)。今回の発表では、日本語での研究を、①文学批評の対象としての尹東柱詩研究・評論 ②尹東柱の生涯に関する研究・雑誌記事 ③尹東柱の詩・生涯を通じた戦争の記憶の継承の三つに分けて紹介し、尹東柱に関する研究の課題について考えた。尹東柱に関する映像資料は、(日本語で利用できるもの) KBS/NHK(1995)、RKB 毎日放送(2017)によるドキュメンタリー番組、映画『空と風と星の詩人～尹東柱の生涯～』(イ・ジュニク、2016)などがあるが、映像資料に関する研究は行われていない。

【国内の調査活動】

- ①2021 年 7 月 28～30 日、熊本訪問、『明成皇后を考える会』(聞き取り調査)、韓国民団熊本県本部民団会館(訪問・聞き取り調査)など。(参加者：イ・ヒャンジン、武田珂代子、韓志昊、研究協力者：李美淑)
- ②2021 年 11 月 2 日～4 日、山形訪問、『茨木のり子六月の会』(聞き取り調査)、茨木のり子の母の家、結婚式場(新茶屋)(訪問・見学)など。(参加者：韓志昊、金智英)
- ③2021 年 11 月 20 日～22 日、福岡訪問、(公財)福岡県国際交流センター支援事業「福岡ちんぐの会」発足 20 周年記念イベント「日韓交流と韓国カルチャーの魅力」に参加、『日韓映画文化交流研究会』(聞き取り調査)、『尹東柱詩を読む会』に参加、福岡刑務所跡地、現福岡拘置所周辺(見学)(参加者：韓志昊、金智英、研究協力者：臺樹純子・崔錦珍)

【国外の調査活動】

- ①2021 年 11 月 11 日～18 日、英国シェフィールド訪問
シェフィールド大学東アジア学部(韓国学科と日本学科)、シェフィールド Showroom Workstation(独立劇場とアートセンター)、シェフィールド・ハレム大学(訪問・聞き取り・資料調査・学術交流)など。(参加者：イ・ヒャンジン)
- ②2021 年 12 月 2 日～5 日、イタリアヴェネツィアカボスカリ大学訪問
アジア・北アフリカ研究学科(訪問・聞き取り調査・学術交流)など。(参加者：イ・ヒャンジン)
- ③2021 年 12 月 18 日～2022 年 1 月 3 日、米国コロンビア大学訪問
コロンビア大学東アジア言語と文化学部韓国学科と図書館、ヴァーサ大学アジア・プログラム(訪問・学術交流・資料調査)など。(参加者：イ・ヒャンジン)

※この(様式 2)に記入の【経過・成果】の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差控え期間等を記入した調書(A4 縦型横書き 1 枚・自由様式)を添付すること。

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①~④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

① 雑誌論文

イ・ヒャンジン、「冷戦の境界を越えるポストナショナル—北朝鮮の国際合作ベンチャー」、『JunCture』、13、2022、pp. 44-58
 イ・ヒャンジン、「嫌悪時代における韓国ドラマの政治風刺と共感の社会学-韓流からNetflixまで-」、『日本学報』、130、2022、pp. 予定

② 図書

Hyangjin Lee, Oxford University, The Oxford Handbook of South Korean Politics, 2022
<https://www.oxfordhandbooks.com/view/10.1093/oxfordhb/9780192894045.001.0001/oxfordhb-9780192894045-e-24?print=pdf>
 Hyangjin Lee, Routledge, Routledge Companion to Asian Cinema, 2022 年出版予定
 イ・ヒャンジン、筑波大学出版会、『日常と文化』(仮)、2022 年出版予定

③ シンポジウム・公開講演会等の開催

イ・ヒャンジン、「嫌悪時代における韓国ドラマの政治風刺と共感の社会学-韓流からNetflixまで-」企画発表、韓国日本学会第 103 回国際学術シンポジウム：嫌悪時代の日韓文化横断の様相と可能性-KカルチャーとJカルチャーを中心に、2022 年 2 月 12 日、サンミョン大学、ソウル。
 Hyangjin Lee, “Korean Cinema with Hyangjin Lee,” 2022 年 2 月 23 日-24 日、ベルリン自由大学、ベルリン
 Hyangjin Lee, “Crash Landing on K-Drama: Exploring the Text and Context of Netflix Hits Crash Landing on You and Squid Game,” 2022 年 3 月 10 日、ヴェネツィアカポスカリ大学、ベニス

④ その他

Hyangjin Lee, “Fun and Power Games in North Korea: Critical Approaches on Cinema, Popular Culture, and Leisure Practices of the DPRK” (パネルチェアとディスカッション)、2022 アジア学会、ハワイ

武田珂代子「太平洋戦争：情報提供者としての離日宣教師」インテリジェンス研究所第 38 回諜報研究会。2021 年 10 月 9 日。(招待講演、オンライン)

武田珂代子「太平洋戦争・日本占領期におけるキリスト教宣教関係者の翻訳通訳活動」日本通訳翻訳学会第 22 回年次大会。2022 年 9 月 4 日。(査読あり、オンライン)

(いずれも、太平洋戦争中に米軍の日本語通訳者・翻訳者・教師となった在米朝鮮人クリスチャン留学生に言及)